

SOKA
LEATHER



LEATHERECTION

狩猟ス、食ベル纏ウ。

狩猟ス、食ベル纏ウ。 Vol.3

入場無料

エゾシカ肉料理、埼玉の地産品については充分に用意したのですが品切れの際はご容赦ください。
開催時は滞在時間に関係なく観覧をさせていただきます。予めご了承ください。
駐車場は用意していません。なるべく公共交通機関をご利用ください。お車でお越しの際は、お車停泊場をご用意していません。

ファミリーマートと提携店舗の間の道を入り50ほど歩くと右手にある民家です。
東急東横線 代官山駅 中央口・東口から徒歩2分

2025

12/20

11:00-20:00

12/21

11:00-15:30

主催
LEATHERECTION
LEATHER TOWN SOKA Project team
協力
PORT

お問い合わせ
info@soka-leather.jp
048-936-2267 河合 泉(かわい いずみ)

於 スペース R

東京都渋谷区恵比寿西 1-35-3

Vol.3

エゾシカが森を駆ける。まるで優美な妖精のようである。左右対称の角は天空を指し示し、しなやかで機能的な脚はどんな藪も軽やかに越える。遺伝子がなせる業か、その繁殖力は群れを広げ、北海道の大地を隅々まで満たし、時に人の営みを脅かす。

「駆除されても命は廃棄されるべきではない。」

2015年 北見のハンター 林徹 (LEATHERECTION) は、エゾシカの肉を熟成させ、高付加価値の商品にした。そして廃棄されている皮に「再生」の可能性を見出した。その道のりは決して平坦ではなかった。

2018年、埼玉県草加で100年もの間、技術を積み重ねてきたSOKA LEATHERの革職人たちと出会い、必然のように二つの道は交わる。SOKA LEATHERは仲間とリレーのように革を受け渡す絆組みを作り、「UTaaAN PROJECT」(ユーターンプロジェクト)と名付けた。そして日本各地のニホンジカ・エゾシカ革の鞣しと製品化に本格的に取り組みはじめた。撃たれた鹿は苦しみを最小に、速やかに解体され、適正な保存と輸送を経てタンナーの手に渡る。しなやかさと強靱さ、保温性を備えた革は「LEATHERECTION (再誕・復活)」の名を冠し、新たな命の物語として人々の生活の助けとなっている。年間約70万頭が駆除される鹿^{*}、屠体すらその約8割が廃棄されている現実^{**}。だが、消費の需要が広がれば、廃棄は減り、命は循環の輪へと還る。

本展示では、両者の歩みとブランドの成長を辿る。「エゾシカ」という命あるものの生態を学び、共生の道筋を考え、革製品の美しさを示すとともに、エゾシカ肉料理と埼玉の地酒を味わいながら、「命の循環」を体験する場となる。

^{*}令和6年度 環境省の調査による。 ^{**}皮革の利用は全体の0.1%ほど(令和5年度 日本タンナーズ協会の調査による)